

令和6年度 第43回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

ジュニア新人の部 南北北海道予選会 大会全般の注意

1 全般的事項

- ① 入場は8:00とする。
- ② 開会式、閉会式を行う。開会式は、出場する選手は原則全員参加すること。
- ③ 荷物は各地区に割り当てられている場所に置くこと。応援のための席の移動は制限しない。
- ④ 原則として敗者監督(外部指導者・クラブ指導者等含む)審判制とする。また、敗者選手は線審を行うこと。なお、得点係ともう1名の線審は主管地区協会が担当する。
- ⑤ フラッシュやライトを点灯させての撮影および競技フロア内での撮影は禁止とする。
- ⑥ 熱中症対策は日本スポーツ協会が定める熱中症予防ガイドブックに基づいて行う。会場の状況によっては、換気の時間を設けたりする場合がある。その際は、大会本部の指示に従うこと。
- ⑦ 別紙の「知っておきたいバドミントンのルールやマナー」「公認審判員行動規範について」等を熟読し、大会に臨むこと。

2 試合に関する事項

- ① 審判団は各試合主審1人、線審2人、得点係1人を配置する。サービスジャッジは配置しない。
- ② 試合進行はできるだけタイムテーブルにそって進めるが、時間短縮のため、コートが空いたら随時試合を入れていく。時間・コートの変更がありえるので放送に注意し、すみやかにコートに入ること。
- ③ 試合が連続する場合は、前の試合の後、10分間を確保して次の試合のコールを行う。
- ④ コートへ入場する際は、トーナメントで上に記載されている方が主審の左側に入ること。
- ⑤ 競技中の服装は、大会運営規程第23条によるものとする。上位の背面中央部には、中学生は(公財)日本中学校体育連盟バドミントン競技部申し合わせ事項、小学生は小学生バドミントン連盟が定める基準に従って校名(クラブ名)及び氏名等の表示をすること。ゼッケンは、四隅を留めることとする(背面表示がある上衣は、ゼッケンで全て覆い隠すこと)。
- ⑥ 表彰、入退場、試合の挨拶の際は、マナーとしてウェア(上衣)の裾は下衣の中に入れること。
- ⑦ マッチ前練習は、どちらかが初回戦のみ3分間行う。(3分間の中に主審のコールおよび「ラブオールプレー」が含まれるので、実際の練習時間は2分程度となる。)
- ⑧ 今大会はコートサイドにカゴを用意しない。タオル、スクイズボトル(水筒)、滑り止めなどはまとめてバッグに入れ、コートサイド(主審のそば)に置くこと。また、その他の物はコーチ席で保管すること。なお、交換用ラケット(ケースから出しておく)はバッグの上に出しておくことを認める。
- ⑨ ハードタイプのクーラーボックスの競技エリア内への持ち込みは禁止とする。氷のうは、ソフトタイプの保冷バッグに入れ、コーチ席で保管すること。
- ⑩ うちわ、ハンディファンなどの気流を生み出す道具は、インターバル時のみ使用を認める。ラリー中は、コーチ席において使用することは認めない。叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とする。
- ⑪ コーチ席は2席とする。コーチ席に入れるのは、IDが発行された者2名以内とし、必ずIDを付ける。IDが発行されている者であれば、他校の選手のコーチ席に入ることを今大会のみの特例として認める。
- ⑫ コーチ席に入る監督、外部指導者(コーチ)、マネージャー等は、マッチにふさわしい服装で臨むこと。公認審判員規程第5条第12項(8)によるものとする。なお、Tシャツについては、チーム名が明記されたチームTシャツ(ロングTシャツを含む)のみ認めることとする。その他のTシャツ(ロングTシャツを含む)を着用は認めない。その適否の判断は、大会レフェリーによるものとする。
- ⑬ 試合中のけが等の応急処置は主催者および救護担当が行うが、その後の処置は各自の責任とする。